

創造学報

Toyohashi Sozo University News

地域・職業教育・人間教育

2023.夏号
VOL.48

- P1——**特集1** 豊橋創造大学リブランディングプロジェクト
P2——**特集2** 短期大学部創立40周年記念事業・施設改修
HPフルリニューアル
P3——**特集3** SOZOキャンパスライフスタートDAY
P4——寄付金事業業／同窓会総会のご案内
学外で活躍する学生たち
P5——短期大学部地域連携事業／高大連携事業
P7——豊橋創造大学短期大学部創立40周年記念事業告知



短期大学部創立40周年記念事業
正門モニュメント
「ようこそ、私たちの大学へ」



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

新しいブランドビジョンとシンボルで、未来を創造。 タグラインは「Care&Idea」、ブランドカラーはオレンジ。

本学では、開学以来使用してきた大学のロゴマークなどのブランドシンボルをリニューアルし、2023年4月、新しいタグラインとステートメントのもとに新たな一歩を踏み出しました。2年かけて取り組んだブランドビジョンとシンボルを開発するUI事業の経緯と本学が目指すビジョンについて、遠山企画室長に伺いました。



あなたの未来をともに創造しよう



新しいロゴマークは、「&」と愛称「創造大」の頭文字を“S”を図式化。人や地域とともにある大学であることを、「&」と“S”を融合させた図形で象徴。ブランドカラーは、温かみと活発なイメージのあるオレンジ色に。

Care & Idea

タグライン「Care&Idea」の「Care」は「人をケアする精神」、「Idea」は「一人ひとりのアイデアと行動」、「&」は「向き合い、ともに進む」という取り組み姿勢を言葉に込めました。

Care & Idea

それは

一人ひとりに向き合い共感すること
アイデアを生み出し自分から動き出すこと

ここにはその力を育むための
実践的で専門性の高い学びと研究がある

学生一人ひとりの能力を引き出す教職員
そして心をつかち合える仲間がいる

さあともに未来を創造しよう



遠山企画室長

1996年の創立以来、豊橋創造大学は、時代や地域の声に応えながら、大学、大学院、短大を有する大学として成長し、地域に多くの卒業生を送り出してきました。そして、一昨年度に大学が25周年、今年度に短期大学部が創立40周年を迎えたのを機に、これまでのブランドイメージを見直し、「地域の未来を創造するための大学」としての認知度を高めていこうと、未来へのイメージを広げるリブランディングに取り組みました。

リブランディングは2021年、原点を見直すことからスタート。学科教員や事務スタッフにて広報委員会内にブランディング小委員会を設け、それぞれの意見を交わしながら進めていきました。



新しいタグラインをデザインした本館入り口装飾

学長のトップインタビューを皮切りに、デスクリサーチや学生たちへのヒアリング、企業アンケートなどを行って情報を収集し、本学の特徴を分析。そのなかで本学の理想のパーソナリティとして示されたのが「誠実」「真面目」「あたたかな」というイメージでした。

こうした情報収集と調査・分析をもとに、ブランドビジョンとシンボルを2年かけて開発し、言語化、視覚化しました。そして2023年4月、タグラインとステートメント、ブランドシンボルとしてのロゴデザインを発表。大学のブランドカラーには、温かみや活発なイメージをもつオレンジ色を選びました。「今までの豊橋創造大学とは違う」ということを「積極的に打ち出して



リニューアルしたカフェテリアに掲示されたステートメント

いきたい」という強い思いが込められています。今年度の目標は学内での浸透です。その一環として、各棟の出入り口や柱などを使って学内における告知に力を入れています。

遠山企画室長は「学生たちの満足度を向上させて、学内のリブランディングを醸成させていきたい」と話し、少しずつ変わってきている学内の雰囲気と学生たちの意識に期待しています。

今後は、新しいUI（ユニバーシティアイデンティティ）を正しく浸透させるための活動を行い、これまで以上に地域に開かれた大学、地域の未来を創造する大学として様々な教育研究活動に取り組んでいきます。

明るく、開放的に、心地よく 体育・文化ホール1階をリニューアルしました!

短期大学部創立40周年記念事業の一環として、体育・文化ホール1階のミーティングコーナー及びカフェテリアを全面リニューアルしました。リニューアルした空間は、明るく開放的で、木と緑と光を生かし、これまでの本学の施設とは違った雰囲気が広がります。今回の改修に合わせて、エリア内にパウダールームや授乳コーナーを新設しました。2023年度の始まる4月1日から、学生はもちろんのこと、教職員や学外からのお客様など、多くの方が快適で心地よい時間を過ごしています。



■カフェテリア
ラウンジ空間として常時オープンなスペースになりました。



■ミーティングコーナー
シンプルでモダンなデザインが創造性を高めます。



■C1棟1F多目的トイレ
男女共用の身障者トイレ、こども用トイレの他おむつ替えコーナーを設置。



■パウダールーム
ミーティングコーナー内の女子トイレに併設。



ホームページを フルリニューアルしました。

ブランドシンボルのリニューアルにあわせて、大学公式ホームページもフルリニューアルしました。新しいホームページでは、一新した大学のロゴマークやステートメントを前面に打ち出し、ブランドイメージの浸透を図ることを目標としています。サイトの構築にあたっては、デザインやページ構成などを見直したうえで、時代の変化に対応したサイ

トにリニューアルしました。具体的には、TOPページの上部に訪問者別や目的別のメニューを配置。中段にはイベント情報やプレスリリースのメニューを新設。また、受験生サイトも一新させ、情報を見つけやすくしました。地域連携・広報センターでは、本学ホームページから発信される様々な情報が、多くの人たちに届くことを期待しています。

学部学科横断1年次実施教育プログラム

1年生276人が学科を超えて交流を図る、学部学科横断1年次実施教育プログラム「SOZO キャンパスライフスタートDAY」。学生たちの初年次の共通体験づくりを目的に実施され、これからのキャンパスライフを楽しむ新たなスタートになりました。

学生間の交流を図る

2023年度に入学した大学・短期大学の1年生276人を対象に、学部学科の枠を超えて交流を図る「SOZO キャンパスライフスタートDAY」を5月20日に実施しました。専門性の高い5学科を持つ本学の特徴を生かそうと、今年度からスタートした1年次実施教育プログラムです。内容は、合同授業、レクリエーション、キャンパスイベントの3部構成で行われました。合同授業では、伊藤晴康学長による「建学の精神」に関する講義が行われ、学生たちは、学園の歴史、建学の精神、実践的教育と建学の精神との関係について理解を深めました。

レクリエーションは、「大学施設探検」と題してデジタルスタンプラリーを実施。学生たちは、5学科が入り混じった12人で一組になり、計23グループに分かれて学内を探検しました。16の周遊ポイントのうち5ポイントを選んで訪問し、ポイントに用意された課題（ミッション）に挑戦。各グループとも、互いに協力しながら課

題をクリアし、体験を共有しました。キャンパスイベントでは、学生会と各種サークルによるスポーツレクリエーションやeスポーツ大会などが開かれ、キャンパス内にはキッチンカーの出店もありました。



「新しい経験」で新たな発見

1年生たちは、「新鮮でした。同じグループになった他学科の人と話すことができとてもよかったです」「グループとして一緒に挑戦することで互いの距離を縮めることができ、「新しい経験」ができました」「知らない人としゃべれて楽しかったです。これからのキャンパスライフに役立つと思いました」など、経験することで様々な「気づき」がありました。

学内施設を巡ることでの発見もあり「保健医療学部のあるE棟には行った



ことがなかったので良い機会になりました。車椅子体験もでき、学ぶことも多かったです」、「経営学科だと看護学科の人には会わないから、他学科の人に会うということも「新しい経験」になりました。新しい友だちができてうれしいです」と盛り上がりました。

また、「看護学科は女子が多いので、他学科の男子との交流は学生生活の充実につながると思います」と話す看護学科の男子学生や、「初対面の人と行動することには不安もありましたが、みんな仲良くなりよかったです。他の学科のことを知ることはプラスになると思いました」という幼児教育・保育科の男子学生など、それぞれにキャンパスライフへの期待が高まっていました。



自分の世界を広げるリアルな交流

「以前はオリエンテーションキャンプなどがあって、学生同士が仲良くなるきっかけになっていました。そういうきっかけづくりの一つになればと『SOZO キャンパスライフスタートDAY』を実施しました。全学部学科が一体となって行うことで、他学科の学生と友だちになる機会が生まれ、学生生活に厚みが出ると考えます。学科を超えて交流することで、自分の知識や世界が広がり、そこに新たな価値観が生まれる、こうしたことに期待したい。社会に出る前のこの時期だからこ



そ、人と人とのリアルな交流を深めてほしいと思っています」

伊藤晴康学長

SOZO キャンパスライフスタートDAY (キャンスタ) 写真コンテスト



大賞
渡り廊下の円形ドーム下で



F(フォックストロット)チーム
「光が良かった。できればアーチを入れたいねと話しながら撮りました」理学療法学科1年大河さん

「SOZO キャンパスライフスタートDAY」で行われた「大学施設探検」のミッションの一つ「映える写真を撮ろう」に挑戦したグループの写真を集めて写真コンテストが行われました。そのなかから大賞に、F (フォックストロット) チームの「渡り廊下の円形ドーム下で」が、グリ

ーン賞には、Q (キューベック) チームの「クスノキの木漏れ日と」が選ばれました。7月5日に表彰式が行われ、伊藤晴康学長から各チームに、賞状と図書券が贈られました。伊藤学長は、大賞作品について「渡り廊下の円形ドームを入れた構図が良く、創造性を感じた。チームの結束と楽しさが伝わってきた」と表彰理由を述べ、グリーン賞作品については、「クスノキの下に光を落とす木漏れ日と緑の美しさが印象に残った」と講評。「学科を超えたこうしたイベントが行われる際には、今後も積極的に参加してもらえれば」と期待を寄せました。



グリーン賞
クスノキの木漏れ日と

Q(キューベック)チーム
「チームになった私たちの一つのカタチとして写真を撮り、しかも賞が取れて良かったです」幼児教育・保育科1年藤田さん

教育充実資金・ご支援のお願い

「地域で学ぶ」、「地域を牽引する」、
「地域とともにある」大学として教育研究活動に取り組みます。

平素は本学の教育研究活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。豊橋創造大学及び豊橋創造大学短期大学部は、1983（昭和58）年に開設された豊橋短期大学を前身とし、建学の精神「誠をもって勤儉譲を行え」にも基づき、地域の明日を担う創造性豊かな人材の育成を目標とし、教育活動を行ってまいりました。今日までに大学及び短期大学部併せて約1万5000人の卒業生を輩出しております。これもひとえに、卒業生、在学生及び保護者、企業、地域社会等の皆様のご支援、ご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。
「地域で学ぶ」「地域を牽引する」

「地域とともにある」大学として、本学の教育研究活動の充実・整備、就職活動支援、学生生活支援、キャンパスの施設整備等を目的に、企業及び地域社会の皆様、同窓生や在学生の保護者の皆様に対しましてご寄付を募集しております。また、あわせて「短期大学部創立40周年記念事業」に関する寄付を2024年3月末日迄募集させていただきます。

- 寄付者の顕彰について／謝意を表し、同意をいただいた上で、ご寄付を賜りました方のご芳名を本学のホームページに掲載させていただきます。
- 個人情報保護について／ご寄付のお申込みの際にいただいた情報については、本学の規程に基づき厳重に管理いたします

寄付金の使途

教育研究活動の充実・整備
就職活動の支援
学生生活の支援
キャンパスの施設整備
短期大学部創立40周年記念事業
(受付期間2024年3月末日迄)
※お申し込みの際には、ご希望の使途を選択していただきます。

受付金額

個人の皆様…1口3,000円
法人・団体の皆様…1口10,000円
※金額の多寡にかかわらずお受けいたします。
※可能な範囲で複数口のご寄付をお願いいたします。

お問い合わせ先

学校法人藤ノ花学園
豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部
総務部庶務課
Tel.0532-54-9724
mail: kifujimu@ml.sozo.ac.jp

同窓会総会開催のご案内

第11回創造同窓会

9月9日[土] 総会11:00～懇親会12:00～

会場／A31教室(懇親会会場はカフェテリア)

お問い合わせ／創造同窓会事務局

Tel.0532-54-9433 ● E-Mail sozodo@sozo.ac.jp

豊橋創造大学短期大学部同窓会

10月29日[日] 10:00～12:00

会場／A31、A32教室

お問い合わせ／豊橋創造大学短期大学部同窓会事務局

Tel.0532-54-9435 ● E-Mail dousokai@sozo.ac.jp

学外で活躍する学生たち

令和5年度「豊橋わかば議会」で、本学学生2人が若者委員に

若者が豊橋市をよくするための政策を提案し事業化を目指す「豊橋わかば議会」の令和5年度の若者委員に、短期大学部キャリアプランニング科1年生の牧野晴紀さんと稲吉瑞帆さんが選ばれました。6月27日に、豊橋市議会議場で所信表明が行われ、15歳から25歳までの若者委員20人が一人ずつ演壇に立って抱負を語り、「豊橋の魅力を発信していきたい」と意欲を示しました。牧野さんは、「豊橋市の魅力を、市内外の人に効果的にPRし、楽しめる情報発信を通して、人が集まるまちにしていきたい」と思いを語りました。今期の副議長も務める稲吉さんは、豊橋魚市場での体験を話したうえで、「魚に関わるイベントを企画し、漁業を盛り上げていきたい」と述べました。

浅井由崇豊橋市長は、「この議会は、皆さんが成長していく場です。切磋

琢磨し、あっと驚くような事業を提案してください」と期待を寄せました。2人は今後、ほかの若者委員とともに議論やワークショップを重ね、来年3月に政策提案を発表します。



浅井市長と牧野晴紀(右)さんと稲吉瑞帆(左)さん

豊橋市の「アオハル防災キャンプ」で本学学生たちが実行委員として活躍

令和2年度の豊橋わかば議会で、若者委員の提案を予算化した事業の一つ「アオハル防災キャンプ」の今年度のキャンプに、本学短大部キャリアプランニング科の2年生で、令和4年度に豊橋わかば議会の若者委員を務めた、戸澤佳音さんと佐藤維恵さんが、実行

委員として企画運営に携わりました。

このキャンプは、豊橋市在学の高校生と大学生が対象で、「地域の防災リーダーとなり得る人材育成を図る」ことを目的に実施されました。

戸澤さんと佐藤さんは、ほかの実行委員8人とともに話し合いや学びを重ね、イベント当日に備えました。

キャンプは、8月17日、豊橋市少年自然の家で実施され、戸澤さんと佐藤さんは、参加者とともに防災について考え、防災意識啓発の輪を広げる充実した1日を体験しました。



実行委員会の様子

短期大学部地域連携事業

地域の未来を創造する活動の一環として取り組んでいる、企業や医療機関、行政機関との地域連携協定に基づく各種事業が、学科単位、ゼミ単位で活発に行われ、学生たちの実践的な学びを深めました。

医療事務を学ぶ学生たちが、豊川市民病院院長インタビュー



豊川市民病院との連携事業の一環として、7月14日、キャリアプランニング科矢島ゼミ(医療事務)の学生たちによる豊川市民病院院長インタビューが行われました。インタビューは、院内事務棟の会議室で、佐野仁院長を囲んで対面で行われ、6人の学生たちはこれまでの体験や学びをもとにインタビューしました。学生たちは病院の特色などを聞きながら、病院の事務職についても質問しました。佐野院長は、事務職員が幅広い業務を行っていることに触れ、「事務職員もチーム医療の一員。私たち医療職の働きやすい環境は、事務職の人たちのサポートがあってこそ」と述べ、「それぞれの専門をつなぐという重要な役割を担っているのが事務職」と話しました。

また、佐野院長は学生たちに市民病院の印象を聞いたうえで、「当院は、高度な医療を担うという役割が増えているが、私としては、市民の方の医療の問題に少しでも多く対応する、そういう病院であり続けることが大事かなと思っている」と話しました。

インタビュー終了後学生たちは、「事務職が病院にとってなくてはならないものと聞き、目指すものとしてモチベーションが上がり、頑張りたいと思いました」などと感想を述べ、病院における事務職への理解を深める機会となりました。

子ども未来館ココニコで15年、「SOZO子どもクッキング」



6月から、豊橋市子ども未来館ココニコで、キャリアプランニング科朝倉ゼミの学生たちを中心に「SOZO子どもクッキング」が始まり、多くの子どもたちが参加し、学生たちも

生き生きと活動しています。今年度は季節ごとに4回のクッキング教室を予定し、朝倉ゼミと辰巳ゼミが合同で取り組んでいます。

7月8日は、市内外から訪れた小学生14人が参加し、ちらし寿司ときらきら七夕水まんじゅうを作りました。学生たちは二人一組になって子どもたちに寄り添い、包丁を使った野菜の千切りや、火を使う錦糸卵づくりなど、調理全般をサポートしました。

見学していた母親の一人は、「一人ひとりの子どもを見守るような学生さんたちの対応が親にとってうれしい。包丁などの調理器具を使わせてくれたり、家では上手に教えられる作業を教えてくれるのもいいですね」と話していました。「SOZO子どもクッキング」は、子ども向け料理教室として学内でスタートし、ココニコが開館した2008年からは同館の体験プログラムとして実施。以来15年間、人気プログラムとして続いています。

「親子でつくろう!こうさくきょうしつ」を実施



幼児教育・保育科加藤ゼミの学生による「親子でつくろう!こうさくきょうしつ」が、7月16日、豊橋市まちなか図書館のワークショップスペースで行われました。加藤ゼミでは、「少人数を対象としたワークショップを通して、実習とは異なる指導方法や対応を経験する」ことを目的に、1年を通じて市内外で様々なワークショップを行っています。

今回は、「トココアニマルカップ」や「ビリビリボイスチェンジャー」など紙コップを使った工作物を題材に、1回40分の工作教室を4回実施しました。参加した母親からは、「子どもたちにとって学生さんは身近なお姉さん。保育者をめざす学生らしい対応に親しみやすさを感じた」などと好評でした。学生たちは「一人ひとりの子どもと濃く関わることができ、いろいろな話を聞けました」「イヤイヤ期の子についてお母さんから直接話を聞くことができ勉強になりました」など、手ごたえを感じる実習となりました。

子どもたちと共に楽しむ「SOZOふれあいひろば2023」



7月29日、豊橋市子ども未来館ココニコで、幼児教育・保育科2年生による「SOZOふれあいひろば」が開かれました。4つのセミナーがイベントを企画し、来館した子どもたちにおはなし会やエプロンシアターを披露し、工作教室も実施しました。ここに広場では、「同じように見えてるのかな」をテーマに、絵カードを使って、障がいを持つお友だちについて考える「おはなし」をしました。会場には点字の絵本なども用意され、おはなし後、絵本を手にする子どもたちに学生たちが話しかける姿がありました。工作コーナーでは、「マグスキャップをとばしてあそぼう」と題して、紙コップを使ったおもちゃを制作。完成させた子どもたちは、回転を利用して飛ばす“マグス”効果を体験しました。子育てプラザわんぱく遊戯室では、「お話のじかん交通ルールも学ぼう!」と「音あそびを体験しよう!」の2つのプログラムを実施。「音あそび」では、「北風と太陽」のお話に合わせてながら、学生たちの手作り創作楽器を使って子どもたちが風の音を出すという参加型のエプロンシアターを行い、とても好評でした。

イオンモール豊川で、幼児教育・保育科1年生が、「創作和太鼓」発表



幼児教育・保育科1年生が、「表現学」の集大成として、7月22日、イオンモール豊川での幼児向けイベント「SOZOふれあいフェス」で、「創作和太鼓演奏」を披露。学生たちは、授業で理論を学び、作曲し、初めての発表の場に向けて練習を重ねました。授業の最終日に行われたリハーサルでは、各リーダーがチームをまとめ、「仲良く楽しく演奏し、その楽しさを届けたい」「子ども

たちを楽しませるという気持ちで、自分たちも楽しみながら全力を尽くしたい」と意欲を語り合いました。当日は、会場に訪れた子どもたちの前で元気に演奏し、演奏後は、子どもたちの「和太鼓体験」を行い、ふれあいの時間を楽しみました。

指導に当たった朝元尊教授は「保育者の道を目指す学生たちにとって発表の場は、ステップアップのための大切な機会。多くの人たちに見ていただき、学生たちの励みになりました」と振り返りました。

紙芝居「交通ルールを守ろう」、市内の保育施設等に贈呈



子どもと交通安全について学ぶ佐野・葛谷ゼミでは、紙芝居等の教材や教育プログラムの開発に取り組み、その一つとして交通安全紙芝居制作を行いました。タイトルは、「交通ルールを学ぼう!」。学生たちがキャラクターを考え、台本を作り、言葉の言いまわしや配色にもこだわり、スマートフォンのアプリを使って制作しました。印刷費には神野教育財団の助成金を活用。完成した紙芝居は、市内の保育所、こども園、幼稚園の計78園と中央図書館などに贈呈しました。

贈呈を受けた園では、「楽しくわかりやすい内容で、子どもたちへの熱い思いを感じました」と好評でした。

7月にイオンモール豊川で行われた幼児向けイベント「SOZOふれあいフェス」では、先輩たちから紙芝居を譲り受けた学生たちが「交通ルールを学ぼう!」を活用し交通安全を呼びかけました。

防災紙芝居「聴覚障害者が困ること」の制作に参加



本学では、「ボランティア論」や「ボランティア演習」の授業の中で、地域のボランティア活動について学び、またボランティア募集情報も随時学生に配信しています。こうした中で、ボランティア活動に積極的に参加する学生たちが増えてきました。

昨年度は、豊橋市を中心に聴覚障害者の防災対策に取り組んでいる豊橋手話ネットワークが企画した防災紙芝居「聴覚障害者が困ること」の制作に、短期大学の学生2名が参加し、イラストを担当しました。完成した防災紙芝居は、本学図書館にも寄贈されており、今後、防災関連行事のプログラムとして取り上げてもらいたいと期待を寄せています。

高大連携事業

「地域の若者は地域で育てる」をモットーに

東三河の高校に講師派遣や高校生のための講座を開催

本学では、「大学の学習内容を理解することで、進路選択に役立てる」「学問の面白さに触れ、学ぶことの楽しさを覚え、高校での学習意欲の向上につなげる」などを目標に、高校への講師派遣や本学での実践的教育の講座の開講など、それぞれの要望や状況に合わせた高大連携に積極的に取り組んでいます。

キャリア形成につながる「大学講師による授業」

県立豊橋西高校

豊橋西高校では、公共と生活系列の「発達と保育」「公務員教養」、情報メディア系列の授業に、本学から講師を派遣。「発達と保育」では「保育に関わる大切なことを実践的に学べる機会は貴重。専門的な内容を深く学ぶことができる」、「公務員教養」では「公務員試験を熟知した先生からの直接の指導が、進路実現の大きな力になっている」、情報メディア系列の授業では「高校の現場だけでは得られない貴重な助言を得ることができている」と先生たちからも高評価。

藤城義光校長は、「より専門的な学びに向けて高いモチベーションをもつきっかけづくりになり、将来のキャリア形成に役立っていると確信している。この地域に根ざした人材育成につながる教育活動として今後も継続していきたいと考えている」と期待されています。



高大連携協定締結式での藤城義光校長

課題研究として「ビジネス」を多方面から学ぶ

県立豊橋商業高校

間瀬泰宏校長



3年生の課題研究に関わる授業の提供や企業研究などに取り組み、本学短期大学部キャリアプランニング科との連携授業では、実践的なビジネススキルを身につけることを目標に行われています。豊橋商業の担当教員は、「大学生と話せることも貴重な体験。生徒たちは生き生きとした表情を見せて受講している。経験や知識を深めるだけでなく、人間性の成長も感じさせる」と話しています。

間瀬泰宏校長は、「専門としている教員から実際に学ぶことや、大学生と話せることは、生徒たちのモチベーションを上げ、進路の決定につながる。課題研究の授業として1年間行うという継続性も大事。今後はさらに一歩進めて、大学生と一緒に深く学べる探究活動ができれば」という考えを示していました。



「高校生向け公務員講座」で夢を実現

私立桜丘高校

進路指導部長
島田冬彦先生



桜丘高校の生徒たちが「高校生向け公務員講座」を受講するようになって6年目。当初は3、4人だった受講生が近年では25人ほどに増えました。昨年度も数人の合格者をだし、県警や消防署にチャレンジした生徒たちが夢を叶えました。

島田冬彦進路指導部長は、「公務員を志望する本校生徒に対して、大学と連携することで大きな成果が出せていると感じている。公務員講座に助けられている」と話し「担当教授の生徒たちの状況を把握した丁寧な指導は、生徒たちの信頼関係を深めている。選択肢として、大学に行って公務員になるという生徒もいる。そういう生徒たちにとっては、大学の施設や雰囲気を知る良い機会になっている。高大連携によって大学がすごく身近に感じられる」と述べられました。



豊橋創造大学短期大学部創立40周年記念事業

地域とともに40年・これからも地域とともに

短大は、豊橋短期大学として1983（昭和58）年4月に開学し、以来、創造性豊かで次世代社会を担う人材の育成に取り組んできました。創立40周年にあたり、改めて地域が直面している課題をテーマに、本学の専門性を生かした事業に取り組んでいこうと、40周年記念事業を企画し、実施いたします。



映画「こどもかいぎ」上映、「うまれる」シリーズ3部作オンライン上映会

地域の幼児教育・保育関係の人材を多数輩出してきた大学として、「子育て」に焦点を当て、上映を通じて地域が抱える課題解決のヒントを探し、学びます。「こどもかいぎ」は8月19日に上映。「うまれる」シリーズ3部作の「うまれる」「ずっといっしょ」「ママやめてもいいですか」は、11月に配信します。

2023年度「青い空コンサート」～「全員が輝くコンサート」をめざして青い空コンサートの歴史を振り返る

会場／穂の国とよはし芸術劇場プラット
アートスペース



昨年の「青い空コンサート」の様子

2023年12月2日[土]
11時15分～12時

豊橋短期大学の開設以来、多くの方に愛され、続いてきた幼児教育・保育科2年生による「青い空コンサート」。今回は、創立40周年を記念し、学外に飛び出し、穂の国とよはし芸術劇場プラットのアートスペースで開きます。40周年を迎えた大学で学ぶ学生たちの「全員が輝くコンサート」をお贈りします。

お問い合わせ／豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科 ● E-mail : sozo40th@sozo.ac.jp

豊橋創造大学短期大学部・豊橋市教育委員会連携講座 2023年市民大学トラム

テーマ「地域の未来を考える」

短期大学部40周年を記念し、キャリアプランニング科と幼児教育・保育科の両科の教師陣による公開講座を行います。今年には本学の講師に加え、各専門分野からそれぞれにゲストスピーカーを招いて開講します。

9月10月12月

講座1

9月9日[土] 10時40分～12時10分

会場／本学

「多様な学びの場」
～子どもから大人まで～

講師／キャリアプランニング科講師 井原淑雅

ゲストスピーカー／廣田泰彦氏

(株式会社はるか 代表取締役)

講座3

10月20日[金] 18時30分～19時50分

会場／本学

「ヒトの育ちを科学の視点で理解する」
～ポストコロナ社会に生きる次世代人類に向けて～

ゲスト講師／明和政子氏(京都大学大学院教育学研究科教授)

コーディネーター／幼児教育・保育科教授 朝元尊

講座2

9月30日[土] 10時40分～12時10分

会場／本学

「こどもの貧困とヤングケアラー」
～その影響と豊橋市のこどもまんなか施策～

講師／幼児教育・保育科准教授 葛谷深昭

ゲストスピーカー／北村充氏

(豊橋市こども若者総合相談支援センターココエール副センター長)

講座4

12月2日[土] 14時30分～16時

会場／穂の国とよはし芸術劇場プラット
アートスペース

「人を幸せに、私も幸せに」
～元タカラジェンヌ夢の続き～

ゲスト講師／まほろば遊氏

(元タカラジェンヌ)

コーディネーター／キャリアプランニング科准教授 瀧崎優佳



お問い合わせ／豊橋創造大学短期大学部地域連携・広報センター ● E-mail : chiren@sozo.ac.jp



豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
公務員別科

豊橋創造大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

2023年8月

編集・発行：地域連携・広報センター TEL.0532-54-9729 FAX.0532-54-9731 E-mail:chiren@sozo.ac.jp

https://www.sozo.ac.jp

